

アコヤガイモニタリング調査結果

(調査日：令和5年6月23日)

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 調査結果の概要

- 外套膜の萎縮個体は確認されなかった。貝殻異常については、一部の貝に段がみられ、宇和海南部海域においては真珠層の褐変個体が確認された。
- 貝柱の赤変個体は確認されず、赤変度合を示すa値の平均値は低かった。
- 栄養の蓄積状態を示す貝柱のグリコーゲン含量は、前月に引続き全海域で高く良好な状態であった。
- 6月中旬まで平年値に比べて1℃以上低めに推移していた水温は、現在平年並みになっている。
- 水温が低めに推移し、餌料環境も良好であったため、昨年同時期に比べ異常個体の出現率は低いですが、病状が現れ始める水温となったので、貝の管理に御注意願います。

2 調査結果一覧

() 内は昨年同月の値

漁場*1	貝の種類 (R4産)	グリコーゲン含量 平均値 (%)	a 値 平均値	赤変個体 (個)	褐変個体 出現率
北部	日中交雑貝*2	8.6(3.3)	-1.2(-0.6)	0	0 (90)
中部①	日中交雑貝	9.1(12.4)	-1.2(-1.1)	0	0 (15)
中部②	日中交雑貝	7.6(7.5)	-0.8(-1.5)	0	0 (90)
南部	日中交雑貝	7.4(5.1)	-0.9(-0.7)	0	20 (50)
平均値		8.2(5.7)	-1.0(-1.0)		

*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

3 調査方法

- 5月から11月まで月1回(概ね第3週)、各漁場・種類毎に20個を調査。
- サンプルは、愛媛県漁業協同組合本所宇和島事業部が、調査日2日前をめどに各漁場で採取して持ち込んだアコヤガイ母貝(2年貝)。

4 調査項目および判断指標

- グリコーゲン含量(%): アコヤガイの栄養蓄積状態を示す指標で、数値が高いほど良好。
- a値: 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。

赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。